

未来のより良い服選びに関する研究

Study on How to Choose Clothes Better in the future

分類：卒業研究

作品

制作年度：2021 年度

課題概要：プロダクト

古川博之 FURUKAWA Hiroyuki 入学年度 2018 年 | 所属学科：工業設計学科 Industrial Design



図1 『ChooseRobe / Wardrobe on the wall』：服選びのためのワードローブ



図2 ハンガーにかけたままの試着を可能にする試着レーン（左）とアイテムの種類にとらわれず、自分の好みや使用頻度によって高さ・配置を変えられる収納レーン（右）



図3 横向きにすることで首から入れることができるアウター・トップス用ハンガー



図4 下から差し込んで自動で挟むことができるパンツ用ハンガー



図5 様々な向きで置けるシューズ用ハンガー（左）とコーディネートを考える際のシューズ置き兼手入れ道具の収納場所のシューズ用BOX（右）

[背景と目的]

2040年頃には、人々はIoTやAIなどのデジタル技術を使ったより便利なプロダクトやサービスに囲まれて生活していると予測されている。しかし、便利なプロダクトやサービスによって、ユーザーが実際に考え、行動する機会の喪失により、手間は省かれる一方、能動的な姿勢や楽しみが失われるのではないかと考える。そこで、普段の生活において行われる行動の中でも特に影響を受けると考えた服選びに着目し、より良い服選びができる未来のワードローブのあり方を提案することを目的とした。

[コンセプト]

- ①服を閉ざされた空間から解放する
- ②アイテムの種類にとらわれず、自分の好みや使用頻度によって高さ・配置を変えてアイテムを収納する
- ③試着という観点からハンガーをデザインする

[最終提案]

『ChooseRobe / Wardrobe on the wall』は、お気に入りや使用頻度の高いアイテム各種3着を、空間に対してオープンに、好きな高さ・配置で収納する。アイテムを見ながら触りながら組み合わせの発想ができ、試着が面倒な場合はアイテムを重ねてそのまま発想もできる。横向きにして首から入れるアウター・シャツ用ハンガー、パンツを下から差し込み自動で挟むパンツ用ハンガー、様々な向きで置けるシューズ用シェルフの3つのハンガーと壁で構成され、頭から足元まで、柔軟に組み合わせを思考できる。